

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	15HP2009	事業期間	平成 27 年度～平成 31 年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
鉄鋼・材料系ジャーナルサイトのプラットフォーム機能強化による国際情報発信力向上		一般社団法人 日本鉄鋼協会	会長 丹村 洋一
学術刊行物の名称			(略称)
ISIJ International			

【平成 29 年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
○ A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>鉄鋼・材料学術ジャーナルを包括的にリンクしたサイト「Steel Science Portal」を開設し、平成 26 年 3 月に運用を開始している。その本来の目的は学術誌 ISIJ International の高質化であり、原稿受理から電子ジャーナル公開までの時間短縮を図る役割を上記サイトが果たしている。</p> <p>しかし、「Steel Science Portal」への来訪者数の減少傾向は、「学術誌 ISIJ International の高質化」のため、「欧米を含む優秀な研究者の注目度を高め、投稿を促す」という目標に対して少々不安であり、さらなる企画・行動が求められる。</p> <p>投稿件数および、そのうちの海外からの比率が応募当時から減少しているほか、「欧米を含む優秀な研究者の注目度を高め、投稿を促す」という目標に対し、海外レフェリー数の割合を減らした点は適切性が問われる。ISIJ International のインパクトファクターも周辺諸国の発展に応じて韓国誌を下回るなど厳しい。</p> <p>掲載率の高い欧米研究者の投稿を促すためにも「Steel Science Portal」の機能強化が必要であろう。</p> <p>成果としては 2 年インパクトファクターが低下している反面、5 年インパクトファクターは上昇しており、長期的には良い方向に向かっている。掲載論文の早期公開の比率を上げることは他の有力誌との競争において重要であるが、助成終了後の著者負担が増えた時の手当についても今から対策等を考えるべきであろう。</p>	